



Weekly Market Report

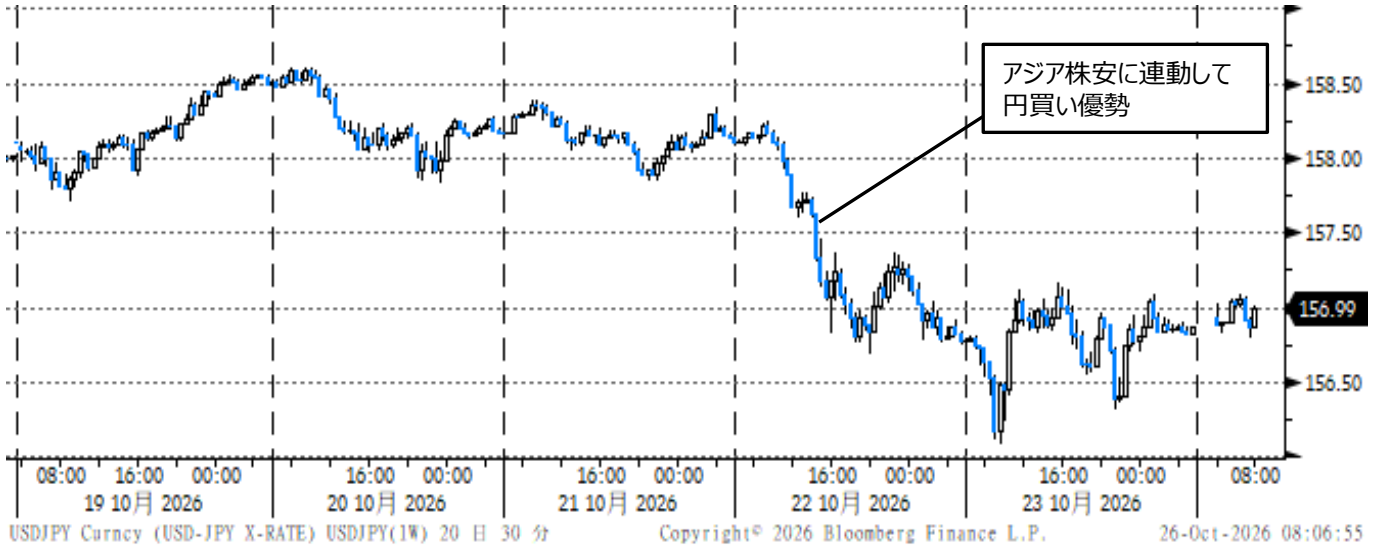
FX, JPY Interest Rate, Topics

Oct 26, 2026

1. 為替相場概況

株安・欧州社会不安の継続で、円買い加速の余地ありか？！

USD/JPY (1週間の値動き)



コメント

先週のドル円相場は、世界的な株安や仏政情不安等のリスクオフを背景に円買い優勢。米金利低下も相まって、158円台半ばから156円付近まで下落し、156円台後半で越週した。今週も株安や仏政治・財政リスクを背景に、ドル円・クロス円ともに上値の重い展開を想定している。今週の日米欧の中銀会合は、揃って金利据え置きの見込みで、来週には米中間選挙も控える中、今会合の相場への影響は限定的とみている。中東発の原油高継続はドル高材料だが、先述のリスクオフ材料はドルの上値を抑制するため、ドル単体の方向感はやや出難い状況。ユーロ安も継続する見込みで、短期的には相対的な円上昇余地が生まれており、特にユーロ円が節目の175円を割り込むか注目したい。その場合、ドル円についても一段の円高進行の可能性もありそうだ。

(市場商品部/CDG)

今週の経済指標 (予定)

日付	イベント	予想
10/27(火)	(米国) 9月新築住宅販売	-4.8%
10/28(水)	(米国) FOMC・ウォッシュ議長会見	
10/29(木)	(欧州) ECB・ラガルド総裁会見	
10/30(金)	(日本) 10月東京CPI(前年比)	2.7%
10/30(金)	(日本) 日銀会合・植田総裁会見	

USD/JPY (5年間)



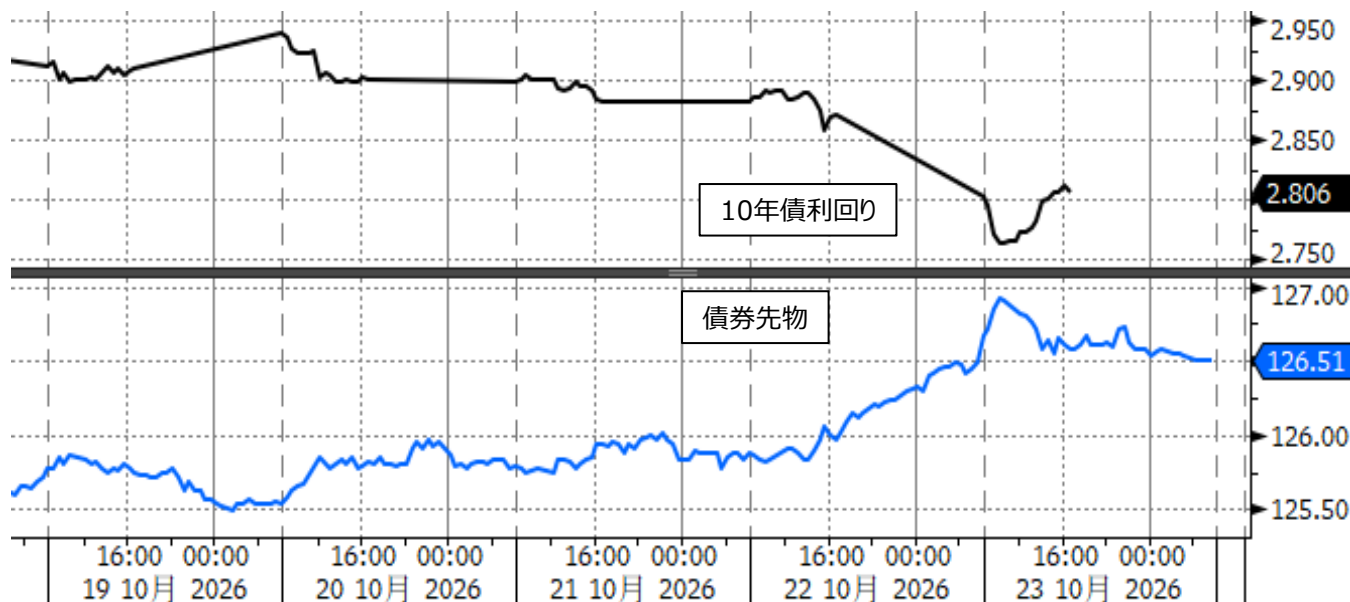
今週のレンジ予想 (USD/JPY)

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
下出康平	156.00 – 159.00	日米中銀イベントでは各国のタカ派度合いに注目。金利差拡大観測が強まれば、当面はドル高継続か。
足立圭一	155.00 – 158.50	156円台後半を中心に底堅いが、日米の重要イベントを控えて上値追いは難しく、膠着状態が続くと予想。

2. 円金利相場概況

今週は日米の中銀政策に着目。要人発言による市場への影響には注意が必要か。

10年国債金利と債券先物（1週間の値動き）



GJGB10 Index (日本国債10年単利) JGB.F 30 日 30 分 Copyright© 2026 Bloomberg Finance L.P. 26-Oct-2026 08:08:11

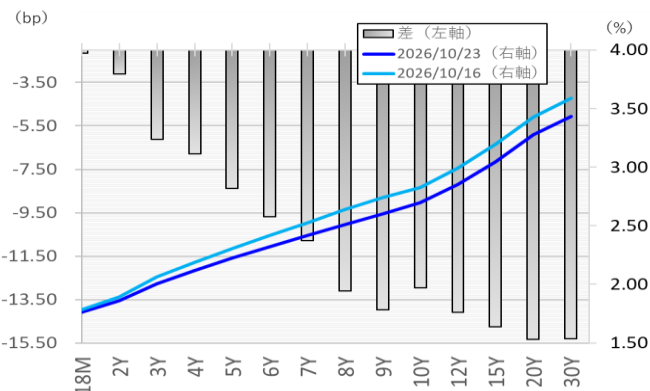
コメント

(出所) Bloomberg

先週の円金利は大幅低下。週初は米半導体やテック株が大幅安となったことを受け、投資家のリスク選好姿勢の後退から金利は低下してスタート。20日は日経平均株価が続落していること、20年債入札額が強い結果だったことを受け、金利は低下基調で推移。21日は中東情勢緊迫化で原油価格が上昇する一方、持高調整などの買いもあり、円金利は狭いレンジで推移。22日はロシアとウクライナの停戦交渉進展への思惑が広がったことから円金利は続落。23日には株式相場の強気局面を支えるAI関連銘柄への投資の持続性を巡り、リスクオフの債権買いが進んだことで円金利は低下。10年債利回りは週間で10bp程下げ、2.80%程で越えた。

今週はFOMCやBOJに着目。いずれの会合も政策金利据え置きが予想されているものの、決定会合後の要人発言による金利の上下動には警戒したい。(市場営業部/鈴木)

金利スワップ変化（1週間）



10年円金利スワップ推移（5年間）



今週のレンジ予想（10年国債利回り）

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
遠藤風翔	2.75% - 2.90%	今週は日銀会合のタカ派警戒感に加え、原油高も合わせり金利上昇での推移を予想。29日の2年債入札にも注目したい。
飯野りさ子	2.75% - 2.90%	今週は日米欧の中央銀行政策に注目。国内では12月利上げが意識される中でタカ派的な内容となれば金利上昇の可能性も。

3. 今週のトピックス

高市政権と円金利動向

高市政権の脱リフレ宣言や株安を背景に金利上昇は一旦ピークアウトか

日銀利上げ観測による円金利の高止まり

国内債券市場は、日銀の利上げ観測などを背景に金利上昇局面が続いており、10年金利は一時3.115%まで上昇し、1996年8月以来およそ30年ぶりの高水準での推移が続いている。

日銀は9月の金融政策決定会合で、6月以来2会合ぶりとなる0.25%の利上げを決定。政策金利は1.25%となり、植田日銀総裁は会合後の記者会見で、物価の上振れリスクを抑える方向に「政策の局面が変化した」と語った。しかし、利上げの採決は全会一致ではなく、2人の反対票が出たことで、日銀内には利上げに慎重な「ハト派」姿勢が根強いとの受け止めが市場で広がり、日銀の追加利上げ観測は一時後退した。また、相次ぐ個人情報流出にAIが悪用されていることから、AI関連投資の懸念も広がり、年末の日銀の利上げ織り込みもピークアウト感がみられる。

【図1】

高市政権による「脱リフレ」宣言

2026年9月22日に開いた日米首脳会議で、トランプ米大統領は足元の為替水準をめぐり円安への懸念を高市首相に伝達した。為替水準について日米首脳が議論するのは異例であり、日銀の金融・財政運営に対する圧力が強まったことに加えて、米ベッセント財務長官も日本にリフレ政策をやめるべきだと伝えていた。こうした動きを受け、高市首相は10月8日の衆院本会議で、利上げに慎重という印象を打ち消すメッセージを打ち出した。脱リフレ宣言は、政府が日銀の独立性を尊重する姿勢を強調し、日銀が追加利上げを進めやすくなるとの見方につながった。また、2027年度の予算編成での国債発行額について、補正予算後も2025年度を下回る40兆円程度とする取り組みを行う【図2】と発表したことを受けて、円金利は一時低下した。

今後の金利見通しについて

今後の円金利については、中東情勢の不透明感による原油価格の上昇【図3】に加え、下記の理由を背景に当面はツイスト・フラット化が進行する局面が続くとみられる。

高市政権発足後、積極財政への警戒感から長期債を中心に売りが膨らみ、短期金利が低止まりしたまま長期のみ上昇する金利のベア・スティープ化が発生していた。しかし、政権の市場配慮の姿勢表明によって、今後の金利構造は変化するとみられる。高市政権による脱リフレ宣言に加え、日銀の植田総裁は物価上振れを警戒する姿勢を示し、追加利上げに対して前向きと捉えられている。

その一方で、フランスの政情不安やAI関連株の下落に伴い相対的に安全資産とされる債券が買われることを背景とした国内長期金利の低下にも注視したい。（市場営業部/加藤）

【図1】2026年年末 政策金利予想値

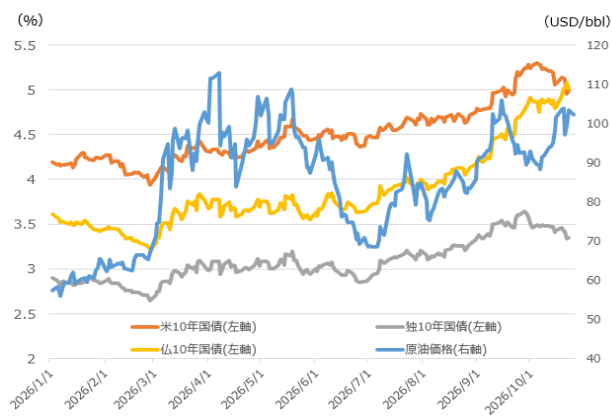


【図2】国債発行額予定額推移

年度	当初予算	補正予算	補正後合計
2021年度	43.6兆円程度	22.1兆円程度	65.7兆円程度
2022年度	36.9兆円程度	25.5兆円程度	62.4兆円程度
2023年度	35.6兆円程度	8.8兆円程度	44.4兆円程度
2024年度	35.4兆円程度	6.7兆円程度	42.1兆円程度
2025年度	28.6兆円程度	11.7兆円程度	40.3兆円程度
2026年度	29.6兆円程度	3.1兆円程度	32.7兆円程度
2027年度			40兆円程度

(財務省HPよりあおぞら銀行作成)

【図3】原油価格・独仏10年国債推移



ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会